

# 大分県新長期総合計画策定県民会議 第2回総合調整部会 委員発言要旨

日時：令和6年3月12日(火)10:00～12:00

場所：レンブラントホテル大分 2階 二豊の間

No.	項目	発言要旨
1	安心1 (3) 防災	・災害ケースマネジメントの実施体制の整備や人材の育成に取り組んでもらいたい。過去の災害でも、災害関連死や、避難所以外の避難者の対応、支援漏れが課題となっている。訪問や見守りにより被災者一人ひとりの抱える課題を把握し、必要に応じて専門家と連携しながら、被災者の自立・生活再建に向けて支援をしていくということが重要となっている。
2	安心3 (3) 子育て	・子育てしやすい周辺環境づくりはとても大事。ハーモニーパークも重要な施設だが、農業文化公園も子育て世帯に大変人気で、今後も環境整備を積極的に推進していただきたい。また、平成森林公園や県立図書館など、子育て世帯だけを対象にしている施設こそ、子育て世帯やこどもの使いやすいような施設整備や運営を考えることが、こどもまんなかという意味では大事だと思っている。
3	安心4 (1) 健康	・健康長寿社会を実現するためには、みんなで生涯を通じて取り組むことで成果が上がると考えている。そういった観点から、口腔ケアは、誰もが幼少期から高齢になっても取り組めることから非常に重要であると考えている。統計データを見ても、3歳児は全国36位、12歳児では全国46位と全国順位が低位となっている。県全体でキャンペーンを展開するなど、口腔ケアの取組を力強く進めてもらいたい。
4	安心4 (2) 医療	・4月から医師の残業時間を規制する「医師の働き方改革」が始まる。これにより、例えば大学からのドクター派遣やアルバイトができなくなる可能性がある。地方の病院への医療供給体制が一層厳しくなることを危惧している。医師の偏在に加えて、「医師の働き方改革」への対応も記載してはどうか。
5	安心6 (2) 地域共生社会	・現状と課題の2つ目にある新型コロナの影響の記載が過去形で書いてあるが、行政のコロナ支援が終了したことや、物価の高騰などにより、生活困窮者の状況は大きな改善が見られず、むしろ市町村社協や福祉施設への相談者、フードバンクからの食料の提供量は、現在の方が増えている。例えば、「新型コロナウイルス拡大が落ち着いた後も、その影響は長く続き、貧困、孤独、孤立で苦しむ人の支援が課題になっている」などに表現を変更できないか。
6	安心6 (2) 地域共生社会  安心7 (1) 治安  (2) 消費者	・生活困窮者や犯罪被害者、消費者被害の方の相談を聞いたり、サポートをしていると、行政や社会福祉協議会など様々な機関と連携してサポートすることがとても重要であると感じている。専門家との連携をもう少し、主な取組に盛り込んでもらいたい。
7	安心7 (1) 治安	・安全を守るためには、犯罪抑止が一番大切ではあるが、発生したものに対するフォローも同じく重要である。犯罪被害者の支援について、目標指標の設定や主な取組の内容をもう少し具体化するなどできないか。 ・被害者支援基金など経済的な支援が弱く、認知度も低いと感じている。認知度が上がれば利用者も増加するのではないかと考えている。
8	元気1 (1) 農業	・令和3年度に県内農業団体と県が連携して立ち上げた農業総合戦略会議の取組が、販売額や産地化に成果として現れてきており、農業団体と県が一体となって取り組むことの重要性を改めて感じている。 ・そうした中で、今回の新長計の主な取組には、食料安全保障に向けた食料の安定供給体制や人手不足対策など、今後重点的に取り組むべき内容も盛り込まれており、農業団体としても一緒になって、しっかり取り組んでいきたい。

No.	項目	発言要旨
9	元気5 (1)  人づくり	・国や県がどんなにいい制度や支援策を作っても、その対象者の方々が知らなければ制度がないのと同じ。しっかりと周知していくことが大事
10	元気2 (1)  中小企業	・国の支援策などで、手続きが煩雑なため申請を諦める経営者もいる。こうした方にも支援策が届くようなサポートができないか。
11	元気3 (1)  観光	・日韓を結ぶ高速船では、欧米豪の乗客の割合がコロナ前の5%から20%に上昇している。世界の観光ニーズも変化していく中で、大分の観光も様々なエリアと繋がっていくと思う。瀬戸内DMOに限らず、広域観光周遊ルートの確立は非常に大事
12	元気3 (2)  観光	・安心分野で「子育て満足度日本一の実現」を掲げているが、観光分野でも、こどもたちが楽しめる視点を追加してはどうか。
13	元気3 (2)  観光	・大分県に国内外から多くの観光客が訪れる理由としては、豊かな自然や温泉があることが大きい。こうした豊かな自然などを保全し、活用していくことが大事。 ・新長計には、持続可能な観光が掲げられているが、利用者負担制度も含めて、旅行者に責任のある旅行をしていただく「レスポンシブルツーリズム」など、地域に負荷のかからない観光という観点も必要ではないかと思う。
14	元気4 (1)  海外展開	・海外展開は、短期的な利益を追求するのではなく、企業価値を高めながら、長期的かつ着実に取組を積み重ねていくことが大事
15	元気4 (1)  海外展開	・大分県に国内外から多くの観光客が訪れる理由としては、豊かな自然や温泉があることが大きい。こうした豊かな自然などを保全し、活用していくことが大事。 ・新長計には、持続可能な観光が掲げられているが、利用者負担制度も含めて、旅行者に責任のある旅行をしていただく「レスポンシブルツーリズム」など、地域に負荷のかからない観光という観点も必要ではないかと思う。
16	元気4 (2)  外国人	・留学生の県内就職を促進してほしい。そのためには、大分に残りたいと思ってもらえる企業を増やしていくことが大事
17	元気5 (1)  人づくり	・農業のみならず、あらゆる産業の人材不足を感じている。県外に出て行く学生が多い。県内の各産業のPR強化と、学校教育や研修など、産業人材育成の仕組みを充実していただきたい。
18	元気5 (1)  人づくり	・人手不足対策には、徹底した省力化と人材の定着が特に大事。最近の新入社員は転職を前提としている人も多く、技術が育たない、伝承できない傾向にある。
19	未来創造1 (1)  交通	・豊予海峡ルート構想や東九州新幹線については、課題や効果を県民等に丁寧に説明しながら理解をいただくことが重要。30年から50年といった長期的な取組であるため、将来のビジョンを描いた上で、そこからバックキャストして今後10年間で取り組む内容を整理する必要があるが、今回の案ではよく記載できていると考える。

No.	項目	発言要旨
20	未来創造1 (1)  交通	・東九州新幹線については、宮崎県や愛媛県など近隣県との連携が重要であるため、主な取組に記載すべきではないか。
21	未来創造1 (1)  交通	・宮崎県では、宮崎市と熊本県八代市を結ぶルート案が検討されているが、そういった状況も踏まえて、本県でもしっかりと検討を進める必要があるのではないか。
22	未来創造1 (2)  交通	・本県の港湾は、各分野横断的に活用できると思う。九州の東の玄関口として、グリーン・コンビナートおおいたの実現も含めたカーボンニュートラルなど、時代の要請に沿ったかたちで様々な取組がなされていくと、大いに期待している。
23	未来創造1 (4)  企業誘致	・目標指標に「企業誘致件数」を掲げているが、誘致した企業の定着率についても、測るべきではないか。
24	未来創造2 (1)  移住定住	・県内の子どもに大分県に残ってもらうためには、定住促進に向けた学校づくりが重要。大分県の良いところをしっかりと教育していくべき。
25	未来創造2 (1)  移住定住	・こどもの県内就職に向けて、企業の方も熱心に学校にアプローチしていただいているが、企業が直接学校を訪問する場合や関係団体の紹介により訪問する場合など、バラバラに動いているため、学校側も対応に苦慮している状況。 ・人材を求める県内企業と就職したい生徒のマッチング促進に向けて、関係機関がしっかり話し合って連携すべき。
26	未来創造4 (2)  DX	・県の電子申請について、手続きが難しいものがある。デジタル化を進めるのは大事だが、もう少し丁寧な説明や、誰でもできる仕組みが必要と考える。
27	未来創造5 (1)  教育	・地方の高校や小中学校の児童生徒数が減っていて、特に地方の高校は、受験者が集まらずかなり苦戦している状況。何とか学校を維持していきたいと考えている。
28	未来創造5 (3)  教育	・公立校としては九州初となる、不登校の子どもを支援する「学びの多様化学校」が玖珠町に開校するので、県としてもぜひ連携してほしい。
29	未来創造5 (3)  教育	・目標指標の「授業でICT機器を週3回以上使用している児童生徒の割合」については、10年後の姿として、週3回以上の利用というのは非常に少ないと感じる。もう少し活用すべき。

No.	項目	発言要旨
30	未来創造5(5)教育	・目標指標に「県内大学等卒業者の県内就職率」とあるが、未来創造2(1)でも、定住促進の効果を測る指標として「県内高校・大学等新卒者の県内就職率」を掲げている。どちらの施策の効果が影響しているかなど分かりづらい面もあるので、再掲すべきか、政策全体の目標に位置付けるかなど検討いただきたい。
31	分野横断	・未来創造分野の「移住・定住」の施策に、テレワーカーの総合的支援の取組があるが、テレワークは、自宅で働きながら、育児や介護との両立が可能になるなど、柔軟な働き方で人材が確保できるという側面も併せ持つ。そこで、元気分野の人づくりの施策にも、テレワークに関する取組を追加してはどうか。
32	分野横断	・未来創造分野の「DXの推進」に、ビッグデータを活用した宿泊事業者の経営力強化と記載があるが、元気分野の観光施策にデータ活用の取組が明記されていない。元気分野の「観光産業の経営力強化」にもデータ活用の取組を追加してはどうか。
33	分野横断	・安心、未来創造分野に記載の気候変動対策について、富裕層や海外のマーケットは環境への配慮に高い関心を示しており、取組を進めていかなければ、元気分野の産業振興等にも大きな影響を与えられらる。 ・自然災害の激甚化や記録的な猛暑、農作物や生態系への影響など、気候変動への適応策も重要。元気分野の元気な農林水産業を実現していくにあたり大きなハードルになるなど、様々な分野にかかわるので、しっかりと取組を進める必要がある。
34	分野横断	・安心、未来創造分野に記載の気候変動対策について、内容が似ているので整理すべきではないか。
35	分野横断	・カーボンニュートラルの推進にあたっては、CO2の吸収源対策も重要だが、排出削減の取組が効果的かつ本質的であると考え。県民一人ひとりが地球温暖化の問題を自分ごととして捉えることが重要。
36	計画全般	・民間の有識者らでつくる人口戦略会議において、2100年の日本の目指すべき姿として、「安定的で、成長力のある8000万人国家」が掲げられている。本県においても、人口減少に歯止めをかけるべく、どのような大分県を目指すのか、キャッチフレーズのようなものがあるとよい。